

糸島市・九州大学・住友理工

「健康」「医療」「介護」事業に関する3者協定第2期について

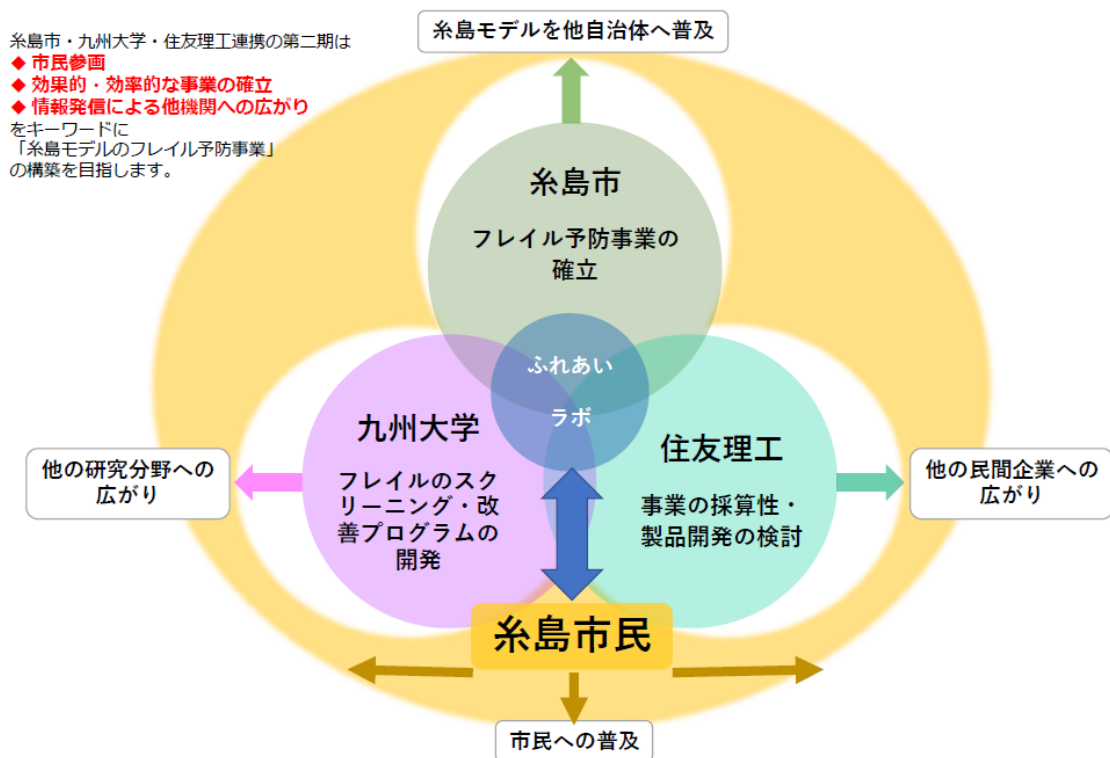
【要旨・経過】

糸島市、国立大学法人九州大学、住友理工株式会社は、地域包括ケアシステムをはじめとする「健康」「医療」「介護」に関する地域福祉の向上、研究教育活動の推進、技術開発による新産業の創出を目的として、2015年12月に3者協定を締結しました。

3者協定に基づき当初は、主に歩行アシストスーツや床ずれ防止マットレスの実用化に向けて、九州大学ヘルスケアシステムLABO糸島を実証実験の場として活動してまいりました。その後は新たにキャンパスライフ・健康支援センター、芸術工学院から教員を迎え活動分野を拡大してきました。

2017年度からは糸島フレイル疫学研究を新たに開始し、多くの糸島市民に参画いただきながら「フレイルチェック事業」等を行っております。これまでの活動により得られたネットワークや知見を活かし、産官学の連携により、今後さらに高齢者が地域で生き生きと暮らせるまちづくりを進めていくために、2019年4月より3者協定の第2期をスタートさせます。

産学官連携による糸島モデルのフレイル予防事業の構築



※「フレイル」とは加齢とともに身体機能や認知機能が低下し体が弱り始めた状態のことです。